

漁況予報 い わ し

第184号

【2014年7～8月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、5月は3.4トンと前年(24トン)及び平年^{※1}(115トン)を大きく下回りました。続く6月も4.6トン(速報値)で、前年(54トン)及び平年(62トン)を大きく下回り、不漁傾向の2ヶ月となりました。

一方、まき網は東京湾側では漁獲がありませんでしたが、相模湾側で両月とも4日間程度ずつ、1ヶ統が5月に計27トン、6月に同82トンの水揚げをしました。

魚体は、まき網で漁獲されたものは大羽マイワシ主体(体長未測定)でしたが、定置網では6月に入り被鱗体長^{※2}(以下同)6-9cmのヒラゴが入網するようになりました(画像参照)。これは2014年生まれの当歳魚で、春のシラス漁で1割強混獲されたマシラス(マイワシ仔魚)が成長したものと思われ、今後さらなる漁獲が期待されます。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、5月は445トンで、豊漁の前年(903トン)及び平年(660トン)を大きく下回りました。続く6月も350トン(速報値)で、好漁の前年(530トン)及び平年(500トン)を下回りました。昨年の5月は体長12cm台の大型成魚主体に非常に多く入網し豊漁となりましたが、今年は9-10cmの小型成魚主体となり、昨年ほどの漁獲量にはなりません。

鴨居地区及び佐島地区(1ヶ統)のまき網は餌イワシとして断続的に漁獲し、佐島地区(2ヶ統)では2ヶ月計170トンの水揚げがありました。

【シラス】

4月に入り漁期入りした相模湾のシラス漁ですが、5月に入ると不安定な漁場形成となりました。上～中旬は散発的な漁模様が続き、沖曳き操業を行う船も出る中、下旬になり100kg/統/日の日も出てきましたが、結局5月の漁獲量(標本船データより推定)は低調に推移しました(前年比0.8倍、平年比0.7倍)。

6月に入ると不漁の前年同期は上回ったものの更に漁獲水準は落ちました(前年比1.8倍、平年比0.8倍)。

3～5月の漁獲物はカタクチシラス(カタクチイワシ仔魚)主体でしたが、マシラスが1割強混獲されており、過去2年に比べ多く来遊している模様です(標本船データより推定)。

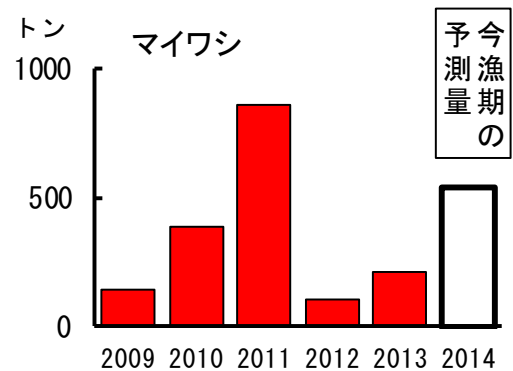
= 予 報 =

過去5年の7・8月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2014年生まれの小羽マイワシ（10～13cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスの漁獲状況から、前年を大きく上回る約 540 トンと予測されます。

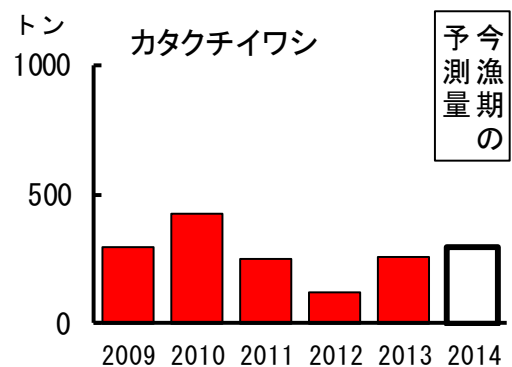


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、前半は小型成魚（9～10cm）、後半は未成魚（6～8cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年並みの約 293 トンと予測されます。

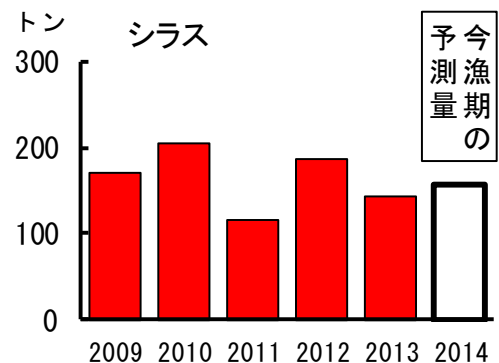


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、5月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、5～6月の相模湾周辺のカタクチイワシ卵分布状況から、前年並みの約 156 トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046) 882-2313



2014年6月4日 相模湾の定置網に入網したヒラゴ